

巻 頭 言

明倫短期大学エデュケーショナルポリシー

明倫短期大学 学長
花 田 晃 治



最近になって、入試時、入学前、入学後の学生に対する対応についての意見が多くみられる。たとえば朝日新聞（朝比奈なを7.8.2011）では「私大ではほとんどが推薦・AO入試を実施しており、現時点では、推薦・AOの善しあしを問うのではなく、入学してきた学生の能力をいかに伸ばすかを考えるべきだ。推薦・AOは、視点を高校生に向けると新たな側面が見えてくる。一般入試に対応できず、これまで進学しなかった高校生に大学が門戸を開いたという意義だ。現在、高卒生の就職は非常に厳しい。求人側が高卒に求める能力は高く、そこまで到達していない生徒も少なくない。大学は、このような生徒が少しでも希望に近い職業に就くための最終的な学びの場であり、希望でもある。このような目的を持ち、推薦・AOで入った学生は、進学校出身の学生とは異なる学習歴を持っている。多くは受験勉強や全国模試を受けた経験がなく、高校の授業内容も異なる。専門高校や総合学科出身者は専門の実習を行う分、いわゆる主要教科の授業時間数が少ない。大学側は学生の学習歴を知り、それに応じた教育をすることが必要ではないだろうか。」

本学にも似たような学習歴の入学者がいる。こうした学生には、高大接続、初年次教育などを試みてきたが、それとは別のモチベーションを提供し、学習意欲を挙げる努力が必要であることがわかってきた。そこで学長提案による「教育再生プロジェクト委員会（河野正司歯科技工士学科長）」を立ち上げ、短期間での集中審議に基づく答申案を求めた。9月より毎週1回の委員会開催の結果、12月中には報告が挙げられた。教務委員会、教授会を経て、理事会に報告して了承を得た。その内容は、

明倫短期大学エデュケーショナルポリシー

—入学から卒業、卒後を見据えた基本方針—

明倫短期大学は、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士という、我が国においてこれからますます大切になる役割を担う医療技術者を育成するため、これら誇りある職業をめざそうとする意欲をもつ皆さんの入学を歓迎します。

歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士は「国家資格」です。国家資格とは「法律に基づいて国が実施する試験により、専門の知識や技能が一定の段階以上に達していることを確認し、その結果、専門職としてその業務を行うことを許可する」ものです。国家試験に合格した方のみが資格を手にし、それぞれの業務を行うことを許されます。国家資格を持たずにそうした業務を行うことは違法とされます。言い換えれば他の公的資格や検定などと違い、国家資格を有して業務を行う方は「国によって保護されている」のです。

明倫短期大学は、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士を養成・育成する使命を担う短期大学として次のような教育を行い、国家資格取得をめざした対応を行います。

1. 入学者選抜

本学の入学者の受け入れについては、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士の国家資格取得とそれぞれの職種

への就業意欲を重視しています。

2. 基礎力向上のために

それぞれの国家試験に合格するためには、本学で学ぶ専門科目のほか、最低限の国語の知識が必要です。このため入学後の基礎教育において徹底してその能力の向上を図ります。

3. 国家試験合格と医療技術者養成のために

本学の教育課程においては、すべて国家試験に合格することを目標に、意欲ある学生と向き合って理解・実践できるまで指導を行います。これによりそれぞれの国家試験の合格はもちろんのこと、社会から求められる医療技術者の養成を図ります。

4. 国家試験合格を目指す教育

本学の教育は国家試験の合格を目標とすることから、指導者が綿密な教育を、最善を尽くして行います。国家試験に合格できる基礎知識・技能を獲得したことを客観的に評価するため、各学年において進級等の判定を行い、次学年への教育を円滑にすすめるようにします。

5. 使命を果たすために

本学の教育課程を経て国家試験に合格するため、教育課程外の指導も行います。さらに歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士を養成・育成する使命を担う短期大学として、合格・卒業・就業後の支援も手厚く行っています。

以上を、ホームページに公開し、募集要項にも記載し、面接の際にも確認し、受験者、入学者に専門職業人となる熱意を持っていただくように教職員を挙げて取り組みます。